

# 様式1

平成20年 4月 11日

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構

理事長 藤村 和 静 殿

福祉サービス第三者評価機関

(有)コモンズ二十一研究所

代表取締役 柳原真理子

## 福祉サービス第三者評価結果報告書

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構評価結果等公表規定第4条第1項に基づき、評価結果を報告します。

評価対象事業所名	(福)横浜市社会事業協会 横浜市中心中央浩生館
評価対象サービス(種別)	生活保護更生施設
事業所連絡先	横浜市南区中村町3-211
事業所代表者名	施設長 上田 一広
評価実施期間 (契約から報告書提出日)	契約日 平成20年1月1日 報告書提出日 平成20年3月26日
訪問調査日	平成20年3月5日、7日
評価委員会開催日	平成20年3月20日
評価委員会出席委員名	菊地委員、衛藤委員、飯野委員、柳原委員
担当評価調査者 (推進機構登録番号)	福島京子(66) 桂田秀利(25) 志賀昭子(373)
評価方法	横浜市期待基準値による

添付書類 (推進機構ホームページで公表します)

- ① 第三者評価結果報告書(総括)～別紙
- ② 評価機関が定める報告様式による評価結果

## 第三者評価結果報告書(総括)

報告日 平成 20 年 4 月 1 1 日

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関 (有) コモンズ二十一研究所		
評価実施年月	20 年 3 月	公表年月	20 年 月
対象サービス	生活保護更生施設	対象事業所	横浜市中心浩生館

総合評価 (優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項)

### 施設の概要

横浜市中心浩生館では、1981 年より養護および生活支援を必要とする生活保護受給者に作業や訓練等を通じて自立を促し、社会復帰に向けての援助を行っています。利用者は男性のみで現在は入所 (定員 : 68 名) と通所 (定員 : 通所訓練 20 人・訪問指導 14 人) の利用者を対象に、行政の生活保護担当者、アルコール依存症回復施設等の各専門機関と連携を図りながら適切なサービスを提供することにより、利用者の生活リズムを取り戻し、就労支援を行っています。H18 年度は 18 名が自立しています。

### <特に優れている点>

#### ○個別支援計画に基づくチームケア

H17 年度より個別支援計画方式を導入し、すべての利用者に対して全職員共通認識のもとに支援にあたっています。本人の望む将来像が最終目標となり、その間の短期・中期目標も利用者本人の意向となつています。その目標に向かい、現在の利用者の状態を考慮しながら支援計画が作成されています。

支援員全員と看護師で毎月 1 回ケース会議を開催し、全利用者について目標に対する現段階での達成度を確認しています。さらに新規利用者と状況変化のあった利用者については計画作成や見直し等の意見交換が行われており、利用者が通っている専門機関や行政の生活保護担当者等とも連携しながら支援にあたっていました。

#### ○アルコール依存症等の受け入れ

アルコール依存症については開設当初より実績があり、現在も定員の 20% まで受け入れています。依存症の利用者は専門の回復機関への通所と自助グループへの参加を通じて、自己を見つめ直すことによりアルコール依存の原因を認識し、克服するためのプログラムを実施しています。アルコール依存症利用者の「飲酒」は「命を失う」ことに繋がるため、そのような場面には職員は非常に厳しく利用者に対応しています。

#### ○地域生活への移行支援

成人病等の持病を抱え、通院、服薬等の医療的対応を必要とする利用者が多く入所しています。内科医はホームドクターになりうるため、嘱託医以外にも、利用者本人が退所後に居住を希望する地域の内科医を通院先に選ぶ等の配慮を行いながら通院の習慣付けがされていました。

また H18 年度より通所事業も開設し、退所者等に対しても引き続き、個別支援計画に沿った生活指導・就労指導等を行っています。自助グループ参加のための勤務時間調整や食事・入浴等の生活支援等、個々の状況に応じた通所支援が行われていました。

## <工夫や改善が望まれる点>

### ○生きる意欲、励みに繋がる支援

人とかかわりを持たずに長期間生活してきた人が多いため、自己の意思表示や人間関係を築くことを苦手とする利用者が多くいます。毎月の「誕生会」や見学会、スポーツ等のイベントを通じて、意見交換の場や利用者間交流等のコミュニケーション支援を行っています。利用者本人調査では衣食住の心配のない安堵感からか、現状に満足している利用者もいました。生きる喜びを感じ社会に適応して、逆戻りしないで済むように、利用者のより主体的な活動意欲を引き出し、社会性を養うためにも利用者自らが参画する場の提供を期待します。

### ○地域交流・家族等の社会とのつながり

施設の役割が自宅での生活が困難な生活保護受給者の自立支援であり、偏見による差別につながりかねないとの理由から住民に対する積極的な情報公開はしていません。現在は餅つきや公園の清掃等を通じて理解を得る等、地域に認めてもらう努力をしているところです。コミュニケーション訓練の観点からもボランティア等を活用し、地域交流を深めていくことを期待します。

また、地域住民や施設 OB、家族等には、共に施設利用者や利用対象者を支える思いのある人もいるため、そのような人たちの発掘と退所者を支える組織となるような施設としての協力体制が望まれます。さらにホームレス対策やアルコール依存症等に悩む住民への相談窓口の開設等、積極的な地域との関わり方の検討を期待します。

### ○人材育成等の運営・経営面

施設単体では職員数が 17 名(調理員・嘱託医を含む)と小規模のため、運営・経営については法人幹部会で検討し、決定しています。今後の社会情勢等を考慮すると「保護施設職員としてのスペシャリストよりも福祉系ゼネラリストを育成すべき」との方針が法人にあり、H20 年度には、身障、精神、高齢者施設等、法人間での大幅な人事異動でこの施設でも支援員の半数近くが入れ替わる予定です。OJT による研修が予定されていますが、サービスに支障がでないよう、また一層の向上が図れるように施設内においてもさらなる研修システムの充実を期待します。と同時に、系統立てたスーパーバイザー育成プログラムの導入も望まれます。また、施設における社会的責任を果たす意味でも環境面への取り組みの強化を期待します。

## 評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	職員は利用者に対し「ここに至るまでの経緯ではなく、これからのことを考えよう。ここで人との関係を築く力を養って社会へ復帰していこう」という姿勢で支援しています。個人情報関連規定があり、それに沿った対応がされていました。利用者についての守秘義務も徹底されており、地域での偏見による差別に発展しないよう、施設の情報公開にも十分な配慮がされています。人権・接遇の職員研修を実施、職員態度への苦情・提言があった場合にはすぐに討議して、確認されています。
---	--------	---

2	利用者の意思、可能性を尊重した自立生活支援	<p>利用者の生活リズムが整い精神的に安定した状態になると、個別支援計画が見直され、アパート生活に必要な貯蓄額設定や職探し等、より具体的な自立支援に移ります。就労支援専門員との連携や職能判定システムを活用しながら利用者の意向にそった就労支援を行っています。</p> <p>食事、入浴、運動、服薬管理、金銭管理等の生活支援や社会性を養うための工夫もされています。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>毎月1回行う誕生会は、利用者の希望や意見を把握し、施設からの連絡、注意事項等を伝える場としても活用され、議事録も取られていました。また、年4回開催される給食委員会においても、食事に関する利用者の要望や感想等と聞き、献立やバーベキュー等のイベントへと反映されていました。</p> <p>施設内の各種安全管理についてもマニュアルに基づき、実施されていました。今後、安全管理委員会が設置される予定です。苦情システムについては第三者委員制度も活用されていますが、利用者の認知度が低いことが惜しまれます。</p>
4	地域との交流・連携	<p>行政の生活保護担当者との懇談会や新任の行政担当者対象の施設見学会を開催し、関連機関との連携強化を図っています。また、町内会の公園清掃や地元イベントに職員や利用者が参加し、地域の理解を得る等しながら、交流を図っています。利用者は近隣の飲食店や地区センター等を利用し、地域のアルコール依存症自助グループには食堂を定期的に貸し出しています。</p>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>経営幹部会に当たる法人施設長会議では、現在外部コンサルタントを交えながら、法人規模に合わせた効率的な運営方法や人事その他の諸制度の見直しを行っています。国や市の生活保護施策が不確定のため中長期計画は作成していませんが、施設としては現状の生活保護中心から障害全般の施策にも対応できるネットワークの構築や費用対効果を念頭に置いた利用者の自立促進をすすめるとの方向性は持っています。また、運営・経営状況は法人ホームページ及び法人機関紙シンフォニーにて公開されています。</p>
6	職員の資質向上の促進	<p>支援員担当の職員新任時には約3ヶ月のOJTにより、緊急性の高い場合の支援対処方法や関連機関との調整のポイント等を習得しています。また、看護師を講師とした感染症発生時の対策等の内部研修や外部講師を招いての接遇、人権研修等が実施されていました。</p> <p>非常にストレスの溜まりやすい仕事ではありますが、職員のモチベーションは高く、個人レベルでも専門分野の見解を深める努力をしています。今後とも各自の持つ意欲をその方向性等を確認しつつ、業務に活かし、維持する工夫を期待します。</p>